

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	南アジア・イスラーム研究をめぐる基礎データ構築のための教員招聘
代表者名	東長 靖
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、南アジアのイスラームについて研究する際の基礎データ構築を目指している。一般に、中東がイスラームの中心地であると思われがちだが、実際には今や世界のイスラーム教徒人口の 3 分の 1 は南アジアで占められており、これは最大勢力となっている。しかし、この重要なテーマに関する基礎データは、いまだ十分に蓄積されているとはいえない。</p> <p>アジア・アフリカ地域研究研究科では、別予算(頭脳循環を加速する戦略的ネットワーク推進プログラム「世界の成長と共存を目指す革新的生存基盤研究のための日本・アセアン協働強化」)において、国際会議のために、モイヌッディーン・アキール前カラチ大学教授を招聘することになっているので、この機会を利用し、同前教授と協働することによって、このテーマの基礎データ構築のための枠組・構想について立案していきたいと考えている。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本事業は、現代のイスラーム世界を理解するために重要な南アジアにおけるイスラームを研究する際の基礎データ構築を目指すものである。事業の概要で述べたように、南アジアは、現代のイスラーム世界のなかで最大のイスラーム教徒人口を誇るだけでなく、イスラーム思想の伝達や書籍の出版に関しても、アラブと並んで最も重要な中心地である。</p> <p>このことを実証的に検証するために、主として 20 世紀にパキスタンおよびインドで出版された書籍をとりあげ、どのような書目が、いつ、どこで出版され、どのように流通したかを調べるのが具体的な課題であるが、本年は実際の調査の前に、枠組・構想をどのようにすべきかを検討した。</p> <p>2015 年 2 月に別経費によって来学中のモイヌッディーン・アキール前カラチ大学教授(現在オックスフォード大学出版会アドバイザー)を、2 月 8 日から 19 日の 13 日間にわたって招聘し、学内の総合研究 2 号館 AA401 号室および総合研究 1 号館 304 号室において、本課題に関して、複数回の研究打ち合わせを行った。</p> <p>このなかで、同前教授からは、1. 多くの書籍で、著者名・書名が明示的に書かれておらず、それを同定するには深い造詣を有する専門家をプロジェクトメンバーに加える必要がある、2. 論文集や雑誌に関してはとくに注意を払う必要があり、収められている各論文のレベルまで降りて情報を集積する必要がある、3. 書籍の形をなさないパンフレット等の冊子が本課題において重要な意味をもっている、4. 学術的な解題を各々について付すことが望ましい、といった指摘を受け、具体的にそれをどのように進めていけばよいかについて議論を行った。</p> <p>また、滞在中の 2 月 13 日に研究報告会を総合研究 2 号館 AA415 において実施した。本報告会には、グローバル人材育成を視野に入れて、大学院生も参加させた。</p>